

第2回江別市部活動の在り方検討委員会 議事録(要点筆記)

- 1 日 時 令和5年11月13日(月) 15時30分から 16 時43分まで
- 2 場 所 江別市教育庁舎 大会議室
- 3 出席委員 委員長 永谷 稔
副委員長 信定 学
委 員 和田 啓司
委 員 小松 真二
委 員 古川 孝行
委 員 横山 聡
委 員 佐藤 ひとみ
委 員 大関 義行
- 4 出席者 教育長
- 5 事務局 学校教育支援室長 堂前 敦
学校教育課長 稲田 征己
生涯学習課生涯学習係主査(文化振興担当) 朝倉 麻沙美
スポーツ課スポーツ係長 井上 滋
学校教育課教職員係長 小原 知紘
学校教育課学校教育係主任 新道 勇太
- 6 傍聴者 1名

	内 容
事務局 (堂前室長)	<p>ただいまから、第2回江別市部活動の在り方検討委員会を開催いたします。</p> <p>はじめに、教育長よりご挨拶申し上げます。</p>
教育長	<p>【挨拶】</p>
事務局 (堂前室長)	<p>議事に入ります前に、配付資料のご確認をさせていただきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次第が表紙になっている会議資料 1部 ・別冊「部活動の在り方検討に係るアンケートの実施結果について」 ・「陸上競技のトレーニング指導に関するご案内」 ・「学校運動部活動指導士養成講習会開催要項」 <p>をお配りしております。</p> <p>不足等が無ければ、以降の議事につきましては、要綱に従い、委員長に進行をお願いいたします。</p>
永谷委員長	<p>次第3(1)部活動の在り方検討に係るアンケートの実施結果について事務局より説明願います。</p>
事務局 (新道主任)	<p>それでは資料1「部活動の在り方に係るアンケートの実施結果の概要について」及び「別冊 部活動の在り方検討に係るアンケートの実施結果について」をご覧ください。</p> <p>なお、資料1実施結果の概要に記載しているそれぞれの文章の最後に、括弧書きで別冊の資料に対応した「ページ番号・問」を記載しておりますので参考にしていただきますようお願いいたします。</p> <p>1 調査概要についてですが、(1)調査目的は、第1回の検討委員会でご説明した通り、市内の部活動主顧問・児童生徒及びその保護者を対象とし、部活動に対する意識や実態、地域連携・地域移行にあたっての課題を把握し、今後の検討材料とすることを目的に9月から10月にかけて実施しました。</p> <p>結果として、(3)回答者数、回答率等については記載のとおり、部活動顧問87.4%、児童13.4%、生徒9.3%、保護者は小・中ともに22%台の回答率となりました。</p> <p>次に2 結果概要ですが(1)児童生徒の部活動に関する意識等について、①小学生では、小学5・6年生の約9割は、中学生になったらスポーツまたは文化系の活動を行いたいと回答し、そのうちの6割は、現在行っている活動を続けたいと回答しています。</p>

<p>事務局 (新道主任)</p>	<p>大会やコンクール等への参加意識については「勝利・優勝を目指して活動したい」が5割弱、「大会への参加や仲間との活動を楽しみたい」という、いわゆる「ゆる部」を含む内容の意見が5割強あり、部活は行いたいと考えてはいるものの、部活に対する熱量には個人差が大きくなることがわかりました。</p> <p>次に、②中学生ですが、中学生の7割以上は部活動に加入しており、現在の部活動を選んだ理由としては「中学生になったらやりたい競技・種目であった」や「部活紹介等を機に入部した」というものが上位の回答でした。</p> <p>現在の部活動に望むことの上位としては、「専門の指導者から教えてもらいたい」「プロを目指すような技術力の向上」など、現状以上の環境を望むものが多い状況でしたが、回答率を考慮すると、熱心に部活をしている生徒が多く回答した可能性があり、偏った意見となっている可能性があります。</p> <p>部活動指導員を導入した部活に参加したいかという問いに対しては、5割が「参加したい」と回答したものの、拠点校方式や地域クラブ活動へ「参加したい」と回答したのは3割にとどまり、部活動指導員に比べると参加には消極的な状況でした。</p> <p>拠点校方式や地域移行に対する意見としては、「やりたい部活ができる」「他校生徒と交流してレベルアップが図れる」といった肯定的な意見がある一方、「他校への移動が大変」「他校生徒との関わるのが不安」「学校対抗という意識がなくなる」といった否定的な意見もありました。</p> <p>次に、(2)保護者の部活動に関する意識等ですが、①小学生の保護者は、部活動指導員・拠点校方式・地域移行の導入については、それぞれの項目で若干の差はあるものの、肯定的な意見が5割程度、子どもの自主性に任せるが4割、否定的な意見が1割程度で、「他校生徒と関わること」「外部の人材が指導することによる責任の所在」などの不安意見が多い状況です。</p> <p>金銭面については、現在の小学生のクラブ活動の月謝は月5,000円以上が6割ですが、部活が地域移行された後の参加費負担の希望は5,000円以下が8割以上と、地域移行による経済的負担の軽減への期待があると推測されます。</p> <p>②中学生の保護者について、外部指導員の導入に対しては、肯定的な意見が5割、子どもの自主性に任せるが4割で、否定的な意見は少数でした。次の拠点校方式・地域移行に対しては肯定的な意見が3割、子どもの自主性に任せるが6割、否定的な意見が1割程度で、意見の大半は</p>
-----------------------	--

事務局
(新道主任)

「子供がやりたい活動をしてほしい」というものですが、不安意見として「他校生徒との関わり」「責任の所在」といった意見が多い状況です。地域移行後の活動範囲については、子どもが1人で行動可能な範囲が9割と、小学生の保護者と同様の回答内容でした。

活動費についても、現在の部活動費と同様に月5,000円以下の希望が大半であり、これらのことから、地域連携・地域移行に向けては移動と経済的負担がネックであることが改めてわかったところです。

次の(3)教職員の部活動指導実態から(5)までについては、顧問の先生や学校からの意見を集約したものです。

(3)の①指導経験ですが、記載のとおり、現在担当している部活動の指導経験・活動経験がともにある顧問が70%、指導経験のみある顧問が20%、ともに未経験の顧問が10%程度であり、経験のない部活動の指導をしている教員が一定数いる中で、現在の部活動の形を維持できているのは、顧問の経験に支えられている部分が大きいと推察されます。

②の地域団体との交流状況については、全体の85%がなんらかの交流があると回答しているものの、状況は学校毎・競技毎に異なっている状況です。

③の外部指導者の導入状況ですが、現段階でボランティアの外部指導者が指導している部は、市全体で87部あるうちの11部で、約12%です。

種目ごとの導入状況は図のとおりですが、吹奏楽部が6部中4部と最多であり、専門性が高く、指導者の確保がより困難であることが理由と考えられます。

④地域移行への意識については、約40%が早急に進める必要があるとしており、その必要はないが約24%、わからないとの回答が約36%で、早急に進めるべき意見としては「勤務時間・休日の適正化」「通常業務への影響」「未経験競技を担当することによる指導力低下」などがあり、必要がないとの意見には、「実態に即すべき」「教育の一環であるため」「外部の人間が関わることによるリスク」などが挙げられました。

次の(4)については、顧問の先生から部活動に係る諸課題について、自由記載いただいた内容の抜粋であり、児童生徒や保護者へのアンケートの回答にあったような「金銭的負担」「生徒の安全面」のほか、「外部指導員や受け入れ団体の確保の難しさ」や「処遇改善」「部員減少による部の存続性」などについての意見がありました。そのほかの意見につ

事務局 (新道主任)	<p>いては、後ほどご覧いただければと思います。</p> <p>次の（５）については、学校単位で調査を行ったもので、</p> <p>①部活指導員の令和６年度導入については全８校が希望しており、指導できる人材の不足が理由となっています。</p> <p>②拠点校方式の導入について、令和６年度から受け入れ可能な部活がある学校が３校あり、種目によっては受け入れ可能な学校や、相談次第ではどの部活でも可能との学校があったところです。</p> <p>③地域移行によるメリットについては、「教職員の負担軽減」「部員数確保」「子どもたちの選択肢の増」などが挙げられ、デメリットとしては「指導方法への不安」「活動が見えないことによる不安」や「移動や金銭的負担」などの意見があったところです。</p> <p>本件についての説明は以上です。</p>
永谷委員長	<p>ただいまの事務局からの説明に、質問や確認したいことなどがあれば、ご発言願います。</p>
小松委員	<p>アンケートの実施にあたり、部活動指導員、拠点校方式、地域移行といった内容について、対象者は概要を理解したうえで回答できているのでしょうか。</p>
事務局 (小原係長)	<p>アンケートの実施にあたって配布したリーフレットに、各概要を記載しており、一定の理解をしたうえで回答いただけていると考えています。</p> <p>【了解】</p>
永谷委員長	<p>そのほかに、質問等はないでしょうか。</p>
大関委員	<p>中学生の回答率が9.3%ということですが、学年の割合はどのような状況でしょうか。</p>
事務局 (新道主任)	<p>別冊資料の10ページに記載のとおり、1年生47%、2年生34%、3年生19%の割合であります。</p> <p>【了解】</p>
永谷委員長	<p>そのほかに、質問等はないでしょうか。</p> <p>【なし】</p>

永谷委員長	<p>次第3(2)部活動の在り方検討に係るワークショップの方向性について事務局より説明願います。</p>
事務局 (稲田課長)	<p>資料2 部活動の在り方検討に係るワークショップの方向性についてをご覧ください。</p> <p>ワークショップにつきましては、前回第1回の検討委員会において実施案をお示しいたしましたが、各委員から様々なご意見をいただき、アンケート実施後に改めて内容を練り直すこととなりました。</p> <p>そこで本日ご提示している資料では、アンケートで明らかとなった課題を整理した上で、それを踏まえてのワークショップの方向性をお示しいたします。</p> <p>まず、1. アンケートから明らかになった課題として主に3点あると考えています。</p> <p>(1) 中学校生徒の部活動加入者は7割以上であり、また5・6年生の約9割が、中学生になったら部活動を行いたいと回答している一方で、顧問は部員数の減少に危機感を覚えており、活動の受け皿を継続して確保していく必要があることから、地域連携・地域移行へ向けた動きを、継続して検討していく必要があると考えます。</p> <p>(2) 保護者は、部活動指導員による指導や拠点校方式による部活動への参加、地域クラブ活動への参加について、子どもの自主性に任せるとの声が多かったものの、一方で生徒自身は、他校や学校以外の地域で活動を行うことに積極的ではない傾向が見られます。また、現在外部指導者が生徒を指導する部活動は少数であることから、顧問以外が学校で部活動を指導することに生徒・学校が慣れる必要があると考えます。</p> <p>(3) 顧問は、部活動の地域連携、地域移行を進めることに対し約41%が早急に進める必要があるとしているが、その必要はないと約24%が回答し、分からないとの回答が約36%あります。</p> <p>また、学校側も部活動指導員の導入は全校が希望したが、指導に当たっては様々な懸念があり、拠点校方式についても生徒の安全確保等の懸念があるとの状況から、地域移行に向けて、スモールステップで課題を解決していく必要があると考えます。</p> <p>以上の点を踏まえ、2 令和5年度のワークショップの方向性につきましては、その目的を(1)に記載の2点といたします。</p> <p>1点目が、部活動の地域移行に係る国の動向等、基本的な「流れ」について関係者の認識を共有することです。</p> <p>もう1点がまずは地域移行の手前にある「地域連携」の2つの柱 ①部活</p>

<p>事務局 (稲田課長)</p>	<p>動指導員の導入、②拠点校方式の導入をテーマに、2回に分けて、導入にあたっての課題を洗い出し、その中から「種目共通の課題」「種目特有の課題」や「すぐに解決すべき(できる)課題」「中長期的に解決すべき(できる)課題」を整理することでありませう。</p> <p>次に、(2)ワークショップの参加者についてですが、まず、参加対象は、全15種目の関係者とし、各種目最低1名の参加を図ります。</p> <p>その考え方のもと、顧問は、全15種目から最低1名参加していただき、部活動数の多い種目は2～3名参加も可とします。</p> <p>少年団等、地域団体の関係者は、できるだけ全15種目を網羅できるよう、スポーツ協会、文化協会等にご協力いただきたいと考えています。</p> <p>保護者は、PTAにご協力いただき、各中学校から2名参加していただきたいと考えています。</p> <p>そして、上記の他、一般公募により数名の市民の参加を呼び掛けます。参加者は、2回のワークショップ両方に参加していただきたいと考えています。</p> <p>また、ワークショップでは、参加者を5つのカテゴリーに分類しグループを作ります。</p> <p>1つのカテゴリーに1グループを基本としますが、参加状況に応じて2グループも可とします。議論し易い人数として、1グループ5～6名になるよう調整します。</p> <p>5つのカテゴリーとは、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インドアスポーツ個人系 (卓球、バドミントン、剣道) ・インドアスポーツ団体系 (バレー、バスケット) ・屋外スポーツ団体系 (野球、サッカー) ・屋外スポーツ個人系 (陸上、テニス) ・文化系(吹奏楽、美術、パソコン、合唱、マンドリン、科学) <p>であります。</p> <p>このように、ある程度共通点がありそうな種目をまとめて一緒に議論することにより、市内に1校しかない種目の参加者も議論に参加し易くなりますし、他の種目の方とお話することで、新たな気付きも生まれるのではないかと考えています。</p> <p>次に、ワークショップのファシリテートと運営は、NPO法人えべつ協働ネットワークと教育委員会職員が担当します。</p>
-----------------------	---

事務局 (稲田課長)	<p>そして開催時期についてですが、 第1回は、部活動指導員導入をテーマに、令和6年1月中旬に開催します。この時に、北海道の部活動地域移行アドバイザー等から、現在の国の動向等を講演いただくとともに、江別市で既に起きている状況、例えば野球やサッカーで部員数減少により単独の学校では活動できなくなっていることなど、足元の状況についてご紹介し、参加者の共通認識を図った上で、グループワークを始めたいと考えています。</p> <p>第2回は拠点校方式導入をテーマとして、令和6年2月上旬の開催を考えています。</p> <p>以上のとおり、今年度に2回のワークショップを開催し、その結果整理された課題を中間報告に反映させ、今後地域連携として進めるモデル事業にも活かしていきたいと考えています。説明は以上です。</p>
永谷委員長	<p>ただいまの事務局からの説明に、質問や確認したいことなどがあれば、ご発言願います。</p>
和田委員	<p>令和6年度から導入予定の部活動指導員について、資格の有無や経験、年齢層など、具体的な部活動指導員像はあるのでしょうか。</p>
事務局 (稲田課長)	<p>ワークショップの開催にあたり、例えば、まずは土日の部活動指導員の導入を始めるなど、ある程度の条件を提示したうえで、課題を整理してもらうことを想定しています。その中で、資格であったり、経験であったり、研修を受けてほしいなど、こういったものを求めるのかという部分が、課題として明らかになることに期待しています。</p> <p>また、ファシリテーターにはある程度の方向性を示したうえで、自分自身の意向だけではなく、導入すると仮定したうえでこういった課題をクリアしていく必要があるのかという方向性で進めていただこうと考えています。</p> <p>【了解】</p>
大関委員	<p>各校から保護者2名の出席が予定されているが、種目ごとの偏りが生じないような工夫は行う予定はあるのでしょうか。</p>
事務局 (稲田課長)	<p>当初は種目毎には決めないで集まっていただくことを想定していましたが、種目ごとに偏ることが懸念されるというご意見をいただきましたので、各学校や顧問の先生に相談し、各競技からの選出についても工夫を進めたいと思います。</p>

永谷委員長	<p>【了解】</p> <p>偏りが起こらないよう、ある程度は学校と協力することは良いことと思います。</p>
佐藤委員	<p>文化系種目における関係団体の人員選出やグループ分けの詳細について説明願います。</p>
事務局 (稲田課長)	<p>まず、顧問の先生については1種目当たり1人は出席していただくこととなりますので、種目によっては部が1つしかないものもあるため、特定の先生にお願いすることになるかと思えます。関係団体について、文化系については、文化協会に何の種目について何名出席してほしいという相談させていただきたいと考えております。</p> <p>グループ分けについては、参加者の状況が判明してからとなりますが、1グループ6名程度で、スポーツ系・文化系でそれぞれ複数グループを作り話し合いをしてもらいます。</p> <p>状況の似た競技・種目を1グループに集めることで、共通の課題や種目特有の課題を出し合い、他の種目と協議することによる気づきにも期待をしたいと考えております。</p>
信定副委員長	<p>【了解】</p> <p>今後、地域連携・地域移行をしていくにあたり、多くの課題があると思えますが、令和5年度のワークショップについては、「部活動指導員」と「拠点校方式」の2点について検討していくということで良いのかということと、今年度のワークショップで話し合われた課題について、今後どのように解決をしていくのか、その見通しについて説明願います。</p>
事務局 (稲田課長)	<p>まず、今年度のワークショップについてはお示した通り、地域連携の2つの柱である「部活動指導員」と「拠点校方式」について議論していただくと考えています。</p> <p>その中で、共通の課題や種目ごとの特有の課題、すぐ解決すべき課題や中長期的に解決すべき課題など、課題の種類によって整理ができるものと考えています。</p> <p>それらの課題について議論しながら、中間報告を行う頃には、年次的な見通しについてもお示しをできればと考えています。</p>
信定副委員長	<p>今後、ワークショップなどで出てくる課題については、実際にモデル校において部活動指導員等の導入を行いつつ検証するというのでしょうか。</p>

事務局 (稲田課長)	<p>その通りでございます。予算の関係もありますが、少なくとも部活動指導員については、ワークショップで出た課題を整理しながら、実際にモデル事業を実施するにあたっての参考としていきたいと考えています。</p> <p>また、実際に導入した時に課題として、例えば部活動指導員の管理監督や指導員という位置づけになった際は、教員に代わって休日の部活動を単独で管理することとなるため、そういった管理部分の方法など、そちらの検証も行いたいと考えています。</p>
永谷委員長	<p>そのほかに、質問等はないでしょうか。</p> <p>【なし】</p>
永谷委員長	<p>次第3(3)令和6年度予算の方針について事務局より説明願います。</p>
事務局 (小原係長)	<p>資料3 令和6年度予算の方針について をご覧ください。</p> <p>予算の方針としましては、令和7年度末までに休日の部活動の地域移行、地域連携に向けて、江別市の実情に応じて、部活動の在り方を引き続き検討するとともに、令和7年度以降の地域連携の本格導入に向けて、まずは令和6年度にモデル校において部活動指導員を導入するという方針を立てております。</p> <p>具体的な予算としては、1つ目は部活動の在り方検討委員会の開催経費として、令和6年度は5回を想定しております。</p> <p>2つ目は、ワークショップの開催経費として、今後も様々な課題について継続して議論をしていく必要がございますので、計上予定であります。</p> <p>3つ目として、部活指導員の導入経費として、指導員の報酬と交通費を計上する予定であります。なお、具体的な人数や学校、種目については未確定な状況でございます。</p> <p>本件の説明は以上でございます。</p>
永谷委員長	<p>ただいまの事務局からの説明に、質問や確認したいことなどがあれば、ご発言願います。</p>
横山委員	<p>予算の関係なので、まだ言えない部分もあるかと思いますが、例えば報酬がどの程度になるのかということ、何校程度で導入予定なのかなど、話せる範囲で構いませんので教えてください。</p>
事務局 (稲田課長)	<p>具体的な金額はお示しできませんが、部活動指導員は市の会計年度任用職員として任用したうえで各部活動に導入することとなります。また導入して終わりというわけではなく、導入後の課題の解決などのフォローア</p>

	<p>ップ体制の確立など、一気に多くの指導員を導入することでフォローしきれない可能性もありますので、まずは数校程度を考えております。</p> <p>また、予算が成立し、実際に募集を開始する段階においては、具体的な報酬額等をお示ししていきたいと思っております。</p> <p>【了解】</p>
永谷委員長	<p>そのほかに、質問等はないでしょうか。</p> <p>【なし】</p>
永谷委員長	<p>次に、次第4 その他 ですが、全体を通して質問や確認事項があれば発言願います。</p>
古川委員	<p>別冊のアンケート結果を見ると、先生たちの苦勞がよくわかりました。部活動の地域連携・地域移行によって、負担の軽減となるとは考えますが、根本的には先生の処遇改善というものも必要と思っております。</p>
永谷委員長	<p>先生の苦勞はもちろんですが、やはり子供たちが運動できる環境を保つということがなにより大事だと思いますので、そのあたりについて地域移行、地域連携という形で解決できるのかは、まだ先の話とは思いますが、今後も子供たちのためにということを念頭に置きながら検討を進めていければと思います。</p>
永谷委員長	<p>そのほかに、質問等はないでしょうか。</p>
小松委員	<p>ワークショップの関係で、顧問の選出方法についてどのように選定していく予定でしょうか。また、部活動指導員のモデル校を決める方法についてご説明願います。</p>
事務局 (稲田課長)	<p>顧問の選出方法について、まずは校長会に協力を仰ぎ、実際に選出作業を行っていただくのは先生たちになるかとは思いますが、中体連・中文連にも種目毎に何名の参加をお願いする旨の相談をさせていただきたいと考えております。</p> <p>また、モデル校の決め方についてですが、ある程度は事務局側で導入する部活動を検討したうえで、各該当校に打診をするという形になるかと思っております。その際に参考となるのが、現時点で外部指導者が導入されている11部であり、学校、指導者の方にご協力いただけるかを個別に確認していくことになるかと思っております。</p>

永谷委員長	<p>【了解】</p> <p>そのほかに、質問等はないでしょうか。</p>
永谷委員長	<p>【なし】</p> <p>それでは、本学で実施している、中学生を対象とした陸上競技のトレーニング活動についてご案内させていただきたいと思います。</p> <p>この活動は市の大学連携調査研究事業という補助金を活用している実施しているもので、これまで3回実施し、5名の中学生が参加しています。指導については、1月までにあと5回行い、事業を終えて結果報告を行う予定です。</p> <p>また、本事業については来年度以降も引き続き実施したいと考えており、その他の競技についても今後できればと考えているところです。</p> <p>次に、本学で3月に実施予定の学校運動部活動指導士の講習会の案内でございます。</p> <p>今後の話にはなりますが、今後部活動指導員を導入するにあたって、こういった資格を持っていることで、ある程度は指導者としての担保がとれるのではないかとということで、紹介をさせていただきました。</p>
永谷委員長	<p>事務局からなにか連絡事項等ありますか。</p>
事務局 (堂前室長)	<p>それでは、次回の検討委員会の開催等について、ご連絡いたします。</p> <p>先ほどの説明でお示したとおり、1月～2月にかけてワークショップを行い、その結果について2月頃に第3回委員会で報告する予定です。</p> <p>事務局より、改めて日程調整のご連絡をさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>事務局からは以上でございます。</p>
永谷委員長	<p>それでは、以上で第2回江別市部活動の在り方検討委員会を閉会いたします。</p> <p>本日はありがとうございました。</p>